東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリーテーマ

ロータリーを
実践し
みんなに
豊かな人生を

Vol.47　第2305回例会　2014.4.17

今年度会長テーマ　話と和で輪を広げ　ロータリーをもっと身近に

■司会：
中條例会運営委員

■点鐘：野村会長

■合唱：ロータリーソング
「日も風も星も」

◆ソングリーダー：
荻野会員

■会長報告　野村会長

皆さんこんにちは　昨日から名古屋守山ＲＣの50周年記念式典に当クラブより有志10名で参加して参りました。今日は記念コンペで7人が参加していますので、この会場はかなり寂しい状況ですが、頑張って例会を盛り上げましょう。式典に関しては、約160人でわりと簡素な式典でした。祝賀会はジャズピアニストの寺井直子さんがアトラクションで出演し、食事はアトラクションの後になりました。かなり気を遣っていたと思います。当日の式典式次第を回覧しますので,ご覧になって下さい。

時間がたっぷりあるのでもう一つお話をします。13日(日)14日(月)福生ＲＣ主催の分区連絡会が群馬県伊香保温泉のホテル木暮にて開催され、内容は新旧会長幹事・地区委員が一同に会しガバナー補佐・分区幹事の司会進行で,現況報告をします。出席人数は50人位です。橋本ガバナー補佐は今回の会議で、ほぼ役割が終了するという雰囲気で終始にこやかでした。季節的に丁度桜が満開で、素晴らしい景色が見られました。さらにもう一つ入退団式に参加して来ましたのでその報告をいたします。

先月26日(水)午前11時より、東村山警察署3階講堂にて催された東村山地区交通少年団の入退団式に参加してきました。この行事は、社会奉仕委員会で予算化されている消防少年団と交通少年団への育成資金を提供する件です。それぞれ3万円ずつ予算化しています。去年の暮れに東村山消防少年団の餅つき大会に出席した行事と同様に、育成資金を届けに行ってきました。その時にお話ししましたが、毎年育成資金をこの例会場まで団長さんに取りに来てもらっていましたが、私の年度では、是非各々の行事に参加して、育成資金を子供達がいる前で団長さんにお渡ししようと考えていました。毎年11月に開催される産業祭の時に募金活動をお願いしていた団体ですが、実際に入退団式に参加してみて、とても良かったと感じました。小学校1年生から6年生までの児童が、警察の指導により交通ルールや規律正しい団体行動を共にすることによって、他人を思いやるしっかりした子供として成長するそうです。今年入団した1年生の体格は、まだ幼稚園生のままですが顔つきはキリットしていて頼もしい限りです。退団した6年生は、体格から顔つきまで完全になりきっていました。この様な資金を援助することは、とても意義のある事だとつくづく感じました。そしてとても嬉しかったことがありました。式が終了した後に、今年入団した女の子のお母さんがニコニコしながら近づいてきて、「私はロータリーの援助を受けて日本に来ました」ということで、フィリピンの方の様でした。ゆっくりお話ができませんでしたが、なんだかとても心が温かくなった出来事でした。

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／田中　重義
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500　FAX　042-395-1166

■幹事報告　　小町パスト会長

■職業奉仕委員会：
第3回地区職業奉仕委員会公開講座の案内の受理
2014年5月16日(金)　18:00～
於　東京商工会議所

■東村山青年会議所：
第33回わんぱく相撲東村山場所の案内の受理
2014年5月18日(日)　8:45
於　八坂神社境内

■東村山市体育協会：
礼状の受理
(4/6)東村山市体育協会創立50周年記念・第51回春季東村山市民体育大会総合開会式に出席に対して

■例会変更：
・東京臨海東ＲＣ　6/ 3(火)→特別休会
・所沢中央ＲＣ　4/21(月)→通常例会 他

■回覧：ハイライトよねやま

■出席報告　　北久保例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
30	23	0	3	88.46

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：4名
■前々回出席率メークアップ修正後：84.62%
■前々会メークアップ者：
野澤会員：理事会

■ニコニコＢＯＸ　　西河クラブ管理委員

◆野村会長：名古屋守山ＲＣの50周年に参加してきました。また今日は小町さん、卓話よろしくお願いします。
◆小町会員：先日の歩こう会、素晴らしい企画で楽しかったです。多くの参加を頂き、北久保・野澤幹事ご苦労さまです。写真ありがとうございます。本日は幹事代役と卓話の担当とよろしくお願いします。
◆樺澤会員：歩こう会、大変お世話になりました。写真ありがとうございました。

本日のニコニコ合計：　8,000円
累　　計　：1,172,324円

■卓話

■卓話者：
小町会員研修委員長

雑誌月間に因んで

皆様には毎月、月初めに中丸会員研修副委員長よりロータリーの友の要約が話されています。ロータリーの友の購読はロータリーを知ることと、自身の心高める記事等で大変読みやすくなっていますので、手元においてご愛読下されば幸いです。

さて、本日は野村裕夫、北久保両会員にこの後に感銘を受けた記事を披露して頂きます。

3年前の卓話で町田会員研修副委員長が述べられた内容を再度話させて頂きます。当時ロータリーの友の発行部数は98,400部(現在は95,100部)でした。1952年7月にそれまで1地区だった日本の地区が2地区に分割されました。分割後も互いの地区のクラブ、会員の活動状況、意見を知りたい共有したいという思いで両地区の共有雑誌として「ロータリーの友」の発行が決まり1953年1月号横組みで創刊されました。1972年1月号より現在の横組と縦組に分かれました。横組はロータリーの特別月間に関する特集、ロータリー地域雑誌としての公式記事を中心に掲載されてます。縦組は日本のロータリアンのコミュニケーションのかけ橋となる記事を掲載しています。1980年7月号から「ロータリーの友」は国際ロータリー(ＲＩ)の公式地域雑誌になりました。

地域雑誌が守らねばならない規則があり、「The Rotarian」の記事で指定されたものを翻訳して掲載しなければならない。これらの記事は「ＲＩ指定記事」と呼んでロゴマークがついています。
ここで1月号(ロータリー理解推進月間)の記事で比べてみよう日本と韓国そして世界のロータリーはこんなに違うのです。そこで、皆さんに質問させて頂きます。

①Ｑ：会員数の動向で、ここ10年間で日本の会員数は何％減少し、韓国は何％増加したでしょうか。
Ａ：日本は24％減少し現在81,400人、韓国は23％増加し62,822人
②Ｑ：会員の性別で韓国は男性85％、女性15％、世界は男性81％、女性19％。
それでは日本は男性何％でしょうか。
Ａ：男性95％、女性5％(正解者あり)
③Ｑ：会員の年齢は韓国50歳台39％、世界50歳台27％それでは日本は60歳代何％か
Ａ：33％そして50歳台25％、70歳以上が25％(正解者あり)
④Ｑ：会員のロータリー歴で韓国は5年未満が51％、10年以上29％。世界は5年未満38％、10年以上43％です。
それでは日本は5年未満は何％でしょうか
Ａ：31％、10年以上は55％(正解者あり)
⑤Ｑ：クラブの例会時間帯は韓国11:00～13:59が28％、19:00～が48％。世界は11:00～13:59が33％、19:00～39％です。
それでは日本は11:00～13：59は何％でしょうか
Ａ：90％

心に残った記事としては、4月号縦組・枯山水と日本の心のテーマで曹洞宗建功寺住職・庭園デザイナー・多摩美大教授であります枡野俊明さんの話しの中で日本の美意識や価値観とヨーロッパの美意識や価値観とは、何が違うかを話されました。ヨーロッパの文化は石の文化ですその石も積み上げっていって、建物を成り立たせます。スタッキングといい、石を積んでいって、最後はアーチ状にします。間口、いわゆる窓は、細長く長くなければできません。幅広くはできない。それに対して日本の建築文化は軸組工法と言い、柱、桁、梁、という構造材でもっています。日本の建築には筋交という考えはありませんでした。圧倒的な開放空間が日本建築の特徴です。日本の建築は雨風に弱いので、できるだけ直接、建物本体に雨風が当たらないようにします。一方で、夏の日差しは軒でさえぎり、冬の日差しは中へ取り込んでいます。太陽の角度から、一番程良い長さを探り出してきました。ですから、屋根が大きくなりました。

以前、聞いた話で思い出しましたが「気持ちの良い形」「美しいとされている形」はヨーロッパでは黄金比1：1,618(たばこの箱、名刺、パスポート、パルテノン宮殿)で構成されており、日本では白銀比(大和比)１：√2＝1：1,414(紙規格Ａ4、Ｂ4とか、法隆寺の建立)だそうです。身近なもので比べてみてください。

■卓話者：野村裕夫会員

「ロータリーの友」4月号
巻頭言　ＲＩ会長メッセージ
「ロータリーの雑誌で経験を分かち合う」
Ron.D.Burton　2013-14年度ＲＩ会長

4月：雑誌月間に因んで
情報の提供、やる気を起こさせる
好きなコーナー
・縦書き「SPEECH」･･･講演趣旨
・　　「友愛の広場」･･･会員の意見

「ロータリー雑誌の仲間たち」
公式雑誌　英語　500千部　A4　1911年創刊
日　　本　　95千部　A4　1953年創刊
2ページにわたり約30地域のロータリー雑誌を紹介
表紙を見ていても楽しい
日本　95千部多い　　インド　97千部
　　会員88千人

全世界：1283千部(このページを合計すると)
会　員：約1220千人

日本の創刊　1953年(Ｓ28)　ＲＣ創立1920年(Ｔ9)
　　からだいぶ遅れている
公　　式　1905年ＲＣ創立→発刊1911年

■卓話者：北久保会員

「ロータリーの友」今年3月号

友愛の広場の中に「出席こそ力」というタイトルの話しが載っていました。私は去年の4月18日に入会式をさせて頂いたばかりです。この一年間、皆出席を目指してきましたので、この「出席こそ力」という文字に眼が留まったのです。

■出席こそ力
余目　佐藤孝二郎

ロータリーに入り、何年間も続けてきた例会に出席することで、多くの友人ができ、それが心の支えとなって生きがいを感じることができました。出席することが喜びとなり、皆出席にもつながります。友人をつくる努力をしながら心を和らげ広くしていくと、とても幸せな気分になります。

ロータリーの会員に選ばれた方々は皆、素晴らしい素養をもっておられるから、誠意を持って接すれば、必ず温かい心で応えてくれ、心が結ばれるはずです。

「ロータリークラブに入ったが、何も得ることはなかった」と退会する人がいるのが残念で仕方がありません。それは自分の心を開いていないから、積極的に求めようとしないから得られなかったにすぎません。

私は50年ほど前、ロータリークラブの趣旨を聞いた時、人口2万人の小さな町では難しいと思いましたが、農民でも入会してよいというので創立会員として入会しました。現在も農業を職業としているのは私一人ですが、創立以来一回も休まず皆出席です。もう100歳近くになりましたが、「出席することに意義がある」とみんなに言ってがんばっています。
(第2800地区　山形県　稲作栽培)

100歳になられる山形県の佐藤孝二郎さんのおっしゃる「ロータリークラブに入ったが何も得ることはなかったと退会する人がいる。それは自分の心を開いていないから。積極的に求めようとしないから得られなかったにすぎません。」という言葉が胸の真ん中に残りました。まだ1年なので、これからも出席して何かつかめれば良いと思っています。

次はロータリーの友、今年の4月号の中に「元気な笑顔のために」という表題で母親と子供達が地域とのつながりを取り戻すために、日米のロータリアンが協力して支援を続けている内容をご紹介させて頂きます。

陸前高田の沿岸に、津波で傷ついた松が一本立っています。かつて2万3,000人が住んでいたこの地域は、小さながれきばかりの不毛な土地へと変わり果ててしまい、白砂青松で知られた美しい観光地の面影を見ることはできません。

2011年3月11日、30フィート(約9m)の高波によって、この市やその周辺の町々は、根こそぎ流されてしまいました。陸前高田で、津波は柱と壁だけになった大きな建築物2～3棟だけを残し、そして、砂から田んぼを守るために植えられた7万本の松を破壊し尽くしました。2,000人近くが亡くなったこの地域は、大きな打撃を受けました。この災害で、その日のうちに約1万6,000人が亡くなりました。

災害の詳細が明らかになりつつある中で、アメリカ・ペンシルベニア州アードモア・ロータリークラブ(ＲＣ)の会員たちは、被災者を支援しようとメールで連絡を取り始めました。彼らはArdomore Rotary Japan Relief Fundを立ち上げ、寄付を集めました。彼らはその資金を、東京ＲＣ(第2580地区)に送りました。東京ＲＣは、創立100周年のプロジェクトの一つとして津波で流されてしまった子育て支援センターの再建を計画し、家や学校、あるいは両親を亡くした子どもたちに再スタートの機会を与えようと考えていました。その最初のプロジェクトとして2012年に完成した支援センターは、近くを流れる気仙川にあゆが多く生息することから「あゆっこ」と呼ばれ、アードモアＲＣから送られた支援金もこのプロジェクトに役立てられています。

「あゆっこ」は、まだ仮設住宅で暮らす人も大勢いるその地域の母親と子どもたちが、地域とのつながりを取り戻し、経験を共有し、お互いに助け合うための場になっています。精神的なケアを重視し、「子どもの心のケア」を理念に掲げています。

「地震と津波は、この地域の人々に精神的な影響を及ぼし続けています」とアードモアＲＣ元会長のドグ・クレファー氏は言います。センターは心の健康に関するワークショップを開く一方で、コミュニティー意識を持つことが最良の心理療法であるという考えに基づいて運営されています。災害は待ちのインフラだけでなく、そこに住んでいた人々の結びつきまでも破壊しました。「地域での助け合いがなければ、人は生きていけません」と東京ＲＣ元会長の岡崎由雄氏は言います。

暖かい季節になると、センターの庭にはハナミズキが咲き始めます。読書コーナーで子どもたちが寝ている間、若い母親たちは、それぞれの体験を話しています。2歳のさくらちゃんの母親は、ここに来れば、わが子がほかの子どもたちとの遊び方を身に付けるようになると考え、週に2回、さくらちゃんをあゆっこに連れてきます。再建された「あゆっこ」は、温かく安定した環境が、地域社会の再興に役立つことを証明しています。

「過酷な状況にいる若い世代の人たちを助け、今後10年にわたって彼らを育てるための安全な場所を確保することが一番だと私たちは感じています」と、このプロジェクトを始めた時に東京ＲＣの会長だった弦間明氏は言います。「一番大切なのは若い世代を見守っていくことなのです」

あの大震災(2011年3月11日(金)14:46)、死者行方不明震災関連死者あわせて2万1432人。今も20万人以上が避難生活を続けています。

その発生直後にアメリカ・ペンシルバニアのＲＣが寄付を集め、東京ＲＣに送り、東京ＲＣが子育て支援センターの再建を計画し、「あゆっこ」と呼ばれる施設を通して子供達の心を温かく安定させてゆく環境作りに感動しました。

■閉会点鐘：野村会長

■名古屋守山ＲＣ創立50周年式典

4月16日(水)～17日(木)
「名古屋守山ＲＣ　創立50周年式典　参加の様子」